

衆議院議員 茂木敏充先生との対談

開倫塾

塾長 林 明夫

ーはじめにー

CRT 栃木放送で毎週土曜日の午後 4:40 ～ 4:50 に放送されている「開倫塾の時間」で、特に興味の深い放送をご紹介します。

衆議院議員 茂木敏充先生と林塾長との 21 世紀の日本経済をわかりやすく、おもしろく語った対談です。

林 : こんにちは、開倫塾の塾長の林明夫です。

今日も開倫塾の時間を聴いていただきありがとうございます。

今日は、衆議院議員の茂木敏充先生にお越しいただいております。

先生よろしくお願いします。

茂木 : こんにちは

林 : 茂木先生には以前にもこの番組に出ていただいて、今回もご出演いただきありがとうございます。今日は、茂木先生から、「21 世紀の経済社会はどうなるか」というお話をお伺いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

茂木 : こちらこそよろしくお願いします。

林 : どうなるのでしょうか、優しく言っていただけますと…

茂木 : 以前の携帯電話というのはトランシーバーのように大きく、バッグにも入らないようなものですが、今、私が使っている i モードの 503i は形も小さいし、機能を充実しています。メールはもちろん、株式情報やニュースも見ることが出来る、ゲームも出来るという事からも、21 世紀は IT 革命の時代になっているなど、私は考えます。

林 : IT とはどういったことですか。

茂木 : 例えば、情報通信とか、コンピュータといった産業だけで考える方もいると思いますが、私はこの IT によって社会全体が変わるな、と思っています。

ちょっと難しい話ですが、ラテン語で「ユビキタス」という言語があるんですけども…、

林 : 「ユビキタス？」

茂木 : たぶんこれから 5 年位すると日本でもこのユビキタスという言葉を使い出すと思います。

本来の意味は、神が同時にあらゆる所に存在するということだそうです。今まで、我々が産業革命以来、どうしても乗り越えられなかった、例えば、時的制約とか、空間的制約というのは、全く IT 革命によってなくなってくる。

林：ユビキタスですね。神が同時にあらゆる所に存在する。

茂木：どんなことかという、例えば、皆さんは本屋さんに行って本を買うのが当たり前だと思いますが、今、世界で一番大きな本屋さん Amazon. com という会社ですが、お店を一つも持っていないんですよ。しかし、250 万冊という本をインターネットを通じて販売している。店舗そのものがいらなくなってくる。

先日、楽天の三木谷さんという社長さんにお会いする機会がありましたが、彼はショッピングモールを経営しているわけですが、このショッピングモールは、駐車場もなければ売るブースもない。インターネット上で月に約 20 億円の売り上げがあるそうです。

林：年間で 240 億円ですね。すごいですね。

これで、我々栃木県に住む人達は、どんな生活をしたらいいのでしょうか

茂木：今まで東京に住んでいる人々が便利で、地方に住んでいる人々が不便というわけでしたが、ユビキタス社会というのは、どこにいても同じような情報が手にはいる、同じような生活が出来るという、都会と地方の格差が解消されるというきっかけにもなってくると思います。同時にそういった技術を中小企業の皆さんが使うマーケティングをやろうとして、営業の人がいなくてもインターネットを通じて出来ますから、3 人の酒屋さんがニューヨークにもパリにもロンドンにもお酒を売れる、こういう時代がやってきますね。

林：中身の問題になってくると思いますが。

茂木：IT 革命がどういう方向に進んでくるかということです。

パソコンと情報家電が結びついたり携帯電話と自動機器が結びついたりするということで、これから 5 年位すると携帯電話で、自動販売機で、ジュースやコーラを買えるような時代が来る。携帯電話を持っていれば、駅に行ってもそのまま改札を通れる。携帯電話に料金が確認できるといった色々な企業の連携が起こってくる中で、それぞれの企業が自身がどういうビジネスをやっていたらよいか、アイデア勝負の時代に入ってくると思います。

林：アイデアが大事ですね。

アイデアがない人はどうなってくるでしょうね。

茂木：ない人はがんばってもらいましょう。

林：自己責任ということですか。

茂木：IT 革命と、またさらに大きな変化になってくるものがバイオテクノロジーだと思います。

林：バイオテクノロジー…、これはどういうことですか。

茂木：今、世界の人口が 60 億人とか言われていますが、21 世紀の半ばに、これが 80 億、90 億に増えていくと言われています。日本もそうですが、耕作面積がどんどん限られていますので、そうなるちょっとした品種改良してもなかなか食糧が足りなくなる。バイオ技術を使って遺伝子組み替え食品をつくる。シベリアのツンドラ地帯でも、小麦が出来たり、中東の砂漠でも米が出来たり、こういう技術革新も出来る。これは確かにいいことですが、一方で、コストが安くできるのですが、安全性がどこまで確保できるかが問題ですね。特に、食糧については、コストと安全性のバランスというのが、これから常々見直されると思います。

林：栃木県の農業は、これからどうなりますか。

茂木：こういった技術革新も使っていくことになると思います。例えば、イチゴがリンゴくらいの大きさになるとか。

林：出来ることもあるのですね。

茂木：これからの技術の進展は早いと思います。食糧の問題だけでなく、我々の体、生命の謎というものがどんどん解き明かされていく。遺伝子レベルで、茂木だったら茂木、林さんだったら林という遺伝子を調べることによって、風邪をひきやすい体質だとか、高血圧になりやすい体質だとかという、そういったいわゆる予防医学ということも進んでくる。クローンで羊も出来る。ですから技術的にはクローン人間をつくることは可能なわけです。

しかし、その分野になってくると、生命科学、生命医学、生命倫理の調整といった、大変難しい問題が出てくると思います。

林：是非、国会でも議論していただいてご活躍いただきたいと思います。

茂木：ありがとうございます。

林：話は尽きませんが、今日は衆議院議員の茂木敏充先生に来ていただいて、21 世紀の経済社会はどうなるのかについてお話を伺いました。特に「ユビキタス」ですね。神が同時にあらゆる所に存在するという、これが IT 革命の一つの表現だという事を教わりました。先生どうもありがとうございました。

茂木：こちらこそ、ありがとうございました。